街かど

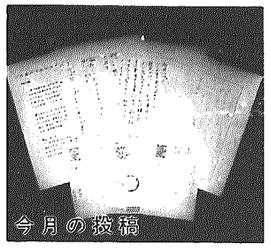
♥募集しています
・短歌
・俳句
・詩
・随筆
・イラスト
・写真
・まんが
・その他

♥町への意見や要望も受け付けます

♥文章は苦手というかたは連絡を取材に行きます

♥匿名もよいです

♥投稿・連絡先は黒埼町大野2043-1 広報「街かど」係 ☎377-3101



短歌

黒埼短歌会

新しき鉄筋作りのごみ置場競うが如く楽しみて出す　柴垣　きみ

海越えて赴任する息子はねんごろに八十路の祖父に別れ告ぐ　笠原　セツ

良寛の修業せしとう五合庵年輪古き昔しのばる　大谷　モト

修学旅行孫のみやげの京扇開けば舞子の紅の香匂う　泉井　ヨ子

暁の光ほのけき障子戸にとび立つ鳩の群れて影さす　竹中千代子

秋の暮外は藁焼く匂いして我が若き日の農のしのばる　大矢　キイ

澄みわたる青空に雲のわきいでて雄山剣の山やまかくす　永田キヨイ

風仙花直ぐ立つ茎に並び咲きおしてる月にかげさやかなり　長谷川トリ

秋晴れに白雲湧きて流れゆく短歌の友静かに逝きぬ　小出美喜子

よもぎ葉にからみて咲きしひる顔の小さくなりて秋深まりぬ　阿部　浄子

蔭に咲く名も知らざりし花なれど今日の命を一ぱいに生く　山田　卯八

俳句

黒埼俳句会

石蕗咲いて残る日和を惜しまばや　講師先生

海の色残る秋鯖買ひにけり　美　芳

趣味一つふえて夜長にしたしめり　モト

なかなまど実のつややかに日を浴びし　義　男

秋風や行くあてもなき車椅子　代　香

どの窓を開けても山や飛騨の秋　憲　治

芋の葉のアチコチ向きて秋日和　多　佳

すずなりの枝もたわわに柿熟るる　チエ子

コスモスやひとりぼっちのティータイム　トシ子

萍の枯れて水面のひらけゐし　一　女

日を追ふて妖しき色に式部の実　一　翠

日溜りに数へきれない式部の実　律　子

秋蜻の大きな黒目ぬれてをり　敏　郎

野分清岩に砕ける大しぶき　トシ松

蟷螂のはねを広げて乾きをり　秀　子

柿を剝く妻の居りたり古希迎ふ　文　雄

まつはれる蜂にもこぼれ貴船菊　翠

一株の稲穂を握り作を見るきいい

コトコトと一輌電車秋の暮　とし

銀杏のつぶれてをりし轍あと　玲　子

入院の夫の横顔秋灯下　弘　子

対岸の声も聞こへて小春かな　綾

みやげ屋の傘を借りたる時雨かな　一　女

葉の落ちて鵙のさし餌のあからさま　舞　子

降りしきる落葉の雨に立ちつくし　麻　世

柿を捥ぐ夫婦の意気の合うてをり　友　佳

民宿の主慣れての蕎麦を打つ　洋　子

ここらでは気違ひなぎといふ時雨　飛　浪

鵙忙し話いよいよもつれ来る　素　明

新調の晴着目ぶしき七五三　小林とし松

黒板に師の書きなぐるくづし字の　解せぬま似せて　ノート　小林　信

にうつす夕ぐれのはまべに子等と来てあそぶ　しばし忘れむ　哀しきことなど　板井　綾子

皇太后一人ぼっちのお過ごしで　未を想へば　さそいかばかり　小林　くに

米沢藩を甦らせた上杉鷹山（ようざん）

上山　恵子（鳥原）

深刻な不況、お米の大凶作と先のみえない荒い波に呑みこまれると、今までの順風満帆が一転して逆境の時代となってきた。

夫が六年前に「上杉鷹山」童門冬二著、の本を読み、私にも進めていたが興味もなく、そのままにしておいた。単純な私は世の中不景気になり、鷹山のことが耳に入ってくると、そうだあの本だと思い出し、あまりのおもしろさに一気に読んでしまった。

かってケネディ大統領が、最も尊敬する日本人はウエスギヨウザンと答えた。「日本人記者団のインタビュー」、そこにいたほとんどの記者は上杉鷹山を知らなかったという。

上杉鷹山は今から二百年前三万石の小藩から、名門上杉家十五万石の養子となった。その頃の上杉家は大名家を幕府に返上しようとまで決意していたほど貧しく、今なら破産申告しそうな米沢藩であった。

鷹山は十七歳で藩を相続し藩再建の厳しい道を歩きだす。米沢藩の荒廃はひどく、無気力無策で格式ばかりを重んじ、家臣は働かず、鷹山への反逆はすさまじかった。

初めて領国入りする際の行列は、通常千人と言われたが、鷹山は百人に削減し米沢の地を踏む、しかし最初の宿泊から殿様の泊る宿なく、野宿するという前代未聞の出来ごとが待っていた。街道筋は荒れはてたまに合う領民の目も、山河さえも死んでいるようだ。

見ると聞くでは大違い、鷹山は絶望に叩きのめされ落胆し挫折感に沈んでいた。途方にくれ煙草でもと思い、冷えきった煙草盆にわずかに残った火種に息を吹きかけ、火が勢いを増すのをじっとみていた。"この火種だ"これこそ藩改革推進派の家臣の姿だと気がつき、この火種を家臣の心にそして人々の心に燃し移していこう。有名な火種運動が始まる。

鷹山が藩の改革にのりだすと、よそ者、小藩の出、年が若いとその立場を誹謗し、新藩主を追放しようと、すさまじい反逆が始まりさまざまな事件が起きる。だが鷹山は毅然と先頭に立ち、信頼する改革推進派家臣を激励しながら大改革を進めていく。

鷹山が家督を相続した時、藩祖謙信の霊に誓を立て、春日神社に誓書をおさめた。その時に詠んだ和歌、「受け継ぎて国の司の身となれば忘るまじき民の父母」、これを生涯の大目標とし、一汁一菜、木綿を着用して一生を通した。税を納める領民こそ藩の宝、民が豊かになることこそ藩主の務とした。

また心身障害者の妻をこよなく愛しいたわり、老人子供弱者を大切にする福祉も実行していく、米沢織、紅花、漆器等を振興し、豊かな米沢藩に甦らせた。天明の飢饉にも一人の餓死者も出さず他藩の援助をしたという。

今日本はすべての面で苦境に立たされている。鷹山が逆境を克服し藩を甦らせた経営手腕、人生哲学を学ぼうと人気が復活している。童門冬二氏は、鷹山の不屈の信念をみごとに描いて読みごたえがある。

俳句自句自解

佐藤　キン

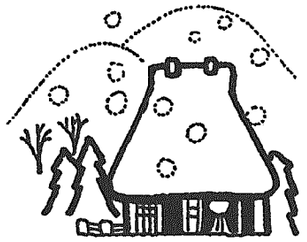
母の背の合羽に下る氷かな

私の子供の頃、秋の刈取りが終わると、川向かいに母は売物に行かれました。風のある日に川波で舟がゆれるので心配でなりませんでした。

ある日、母の帰る時間に風が出て来ましたので心配で母を迎えに渡場へ行きました。雪の降る中に立っている私を母は、「こんなに寒いのになぜ来た」と叱りながら、着ていた合羽にくるんでくれられました。私は母の腰にぶらさがるようにして家に帰りました。

母の合羽の裾に氷がさがっていました。私は母さん寒かったろうと言いながら一本二本と氷をもぎ取った思い出。ぶらさがった母の腰の温かった思い出。むかしむかし過ぎし思い出なつかしい。

私は今八十歳。小学校へまだ行っていませんでしたから、遠い遠い思い出。心温まる私の大切な思い出として。



歳時記

霜柱

冬の朝、白い息を吐きながら、霜柱を踏んで登校――靴の下でザクザクと鳴るのが面白くて、みんかで競争しながら霜柱の上を歩いた思い出をもつ方もおられるでしょう。

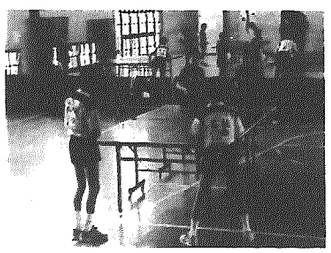
細い氷の柱が、ときには十センチほどにも伸びていて、朝日にきらめく様は美しいものです。でも、霜柱を見たことがない人も案外多いようです。これは都市化した地域が増え、畑や未舗装の道路が少なくなったからでもありますが、実は、霜柱はどこにでもできるわけではないのです。

霜柱は、地中の水分が毛管現象で地表面に染み出て凍り、細い氷柱になったものです。これができるのは零下十度ぐらいまでです。寒すぎると地面の下で凍ります。また、土の質にも関係があります。関東の赤土などには霜柱ができやすく、砂地や粘土質の土地柄ではできにくいのです。

霜柱という植物があるのをご存じですか。シソ科の多年草で、冬に枯れた茎の基部に、霜柱のような氷結が見られるので、霜柱とか雪寄草の名があります。

卓球「黒埼ジュニア」山形・長井と交流

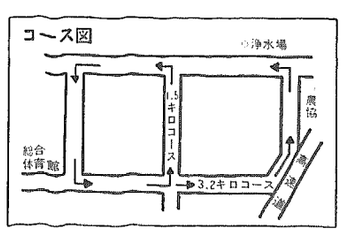
11月6日(日)、7日(月)に、木場小学校児童を中心とする「黒埼ジュニア」21名が、保護者の引率で、全国ホープス卓球大会優勝の山形県長井南卓球スポーツ少年団を訪問し、交流を深めた。男女問わずの交流試合、そしていも煮会で盛り上がり、長井の卓球への情熱を学んだ2日間であった。



第21回 元旦マラソンに参加しませんか？

◆**日時**　平成6年1月1日、9時50分開会式、午前10時スタート
◆**集合場所**　総合体育館
◆**コース**　右図のとおり。
◆**対象**　町内在住の小学生以上の健康な男女（医師から運動をとめられている人はご遠慮ください）
◆**申し込み**　12月20日(月)までに総合体育館か北部地区公民館または教育委員会社会教育課（役場分館2階）へ　※小学生は保護者の承諾が必要です。

※参加者全員に参加賞があります。
問総合体育館（☎377-5211）



巻保健所 テレフォンサービス

12月1日～15日
ペットからコンパニオンアニマルへ
①コンパニオンアニマルとは？
②コンパニオンアニマルの役割

12月16日～平成6年1月3日
かぜを予防し、冬を元気に！
①インフルエンザの予防
②冬の元気な過ごし方

問　月～金…午後5時～翌日8時30分
土曜日、日曜日、祝祭日…終日
☎　(0256) 72-8833（専用電話）

年賀状は12月24日までに

▶年賀状はお書きになりましたか。

元旦にお届けするためには、できるだけ12月23日頃までにお書きいただいて、24日までにお出しください。

12月18日(土)・12月19日(日)・12月23日(祝)は「年賀デー」として、家族そろって年賀状を書きましょう。　大野町郵便局